



# お互いさまで支え合う地域づくり

向日市社協では、地域共生の暮らしを守るため、さまざまな仕組みづくりに取り組んでいます。その一環として、生活困窮者支援を通じた地域づくりにも挑戦しています。今回は、人と人のつながりを育み、思いやりと助け合いの輪を広げる「Join」「社協ファーム なないろ」「社協カレー食堂」「つながりサポーター養成講座」の4つの事業を紹介します。

## Join ~みんなの居場所~

引きこもり状態にある人の身近な居場所や就労体験の場として、活動を行っています。小物づくりやフードパントリーの仕分け、社協ファーム なないろでの収穫物の販売準備などに取り組み、社会とのつながりを取り戻すことを目的としています。参加者は当初の1名から9名へと増え、全員が継続して参加しています。ボランティアやスタッフとの交流や協同作業を重ねるなかで、参加者の自然な笑顔や会話が広がり、さらに社協カレー食堂や社協ファーム なないろとの有機的な連携により活動の循環が生まれ、地域の一員として貢献している実感につながっています。



サポート

## つながりサポーター養成講座

会場 福祉会館 開催 年2回

他の3つの事業を継続的に推進していくため、市民の協力が不可欠であることから、引きこもり状態にある方への支援を学び、寄り添いながら伴走する「つながりサポーター」の養成講座を年2回開講しています。これまでに、延べ70人の市民が受講し、そのうち10人がつながりサポーターとして活動を始めています。



●調理や配膳の手伝い

サポート

●野菜の提供

●野菜の販売

●畑仕事の手伝い  
●野菜の販売作業準備

サポート

## 社協カレー食堂

会場 社協デイルーム 協力 みんなの居場所かむはび  
開催 毎月最終日曜、11:00~13:30



困難を抱える人の交流の場として、また必要に応じて適切な支援につなぐことを目的に無償の食堂を運営。カレーライスに小鉢やサラダを添えた食事を提供し、参加者同士の会話も自然と増えています。「みんなと食べると、より美味しい」と好評です。

## 社協ファーム なないろ

場所 向日市上植野猪ノ子田  
共催 みんなの居場所かむはび



農作業を通じて、さまざまな困難を抱える人たちに就労体験の機会を提供する取り組みです。市内農家から約一反の土地を無償で借り受けて整地し、無農薬の野菜を栽培。収穫物は社協カレー食堂や市内の子ども食堂に提供しています。自然に触れる安心できる居場所となることで、参加者が周囲の人と対話できるようになるなどの変化も見られます。また、農作業に関わりたいボランティアが増え、新たな交流の場が生まれ、芋ほり体験などのイベント開催にもつながりました。収穫した農作物の一部は市民や職員が購入し、その収益を共同募金に納入しています。

## 助け合い、誰もが居場所のある町へ

みんなの居場所かむはび  
(左)福井 ともみさん (右)山根 敏弘さん



これらの取り組みが、地域のなかで自分にできることを見つけ、チャレンジするきっかけになればと考えています。必ずしも就職をして働くことだけがゴールではなく、互いを理解し、助け合いながら、誰もが『ここに居ていいんだ』と居られる街にしていきたいですね

団体紹介

# 地域の活動団体紹介

向日市には、社協とともに安心して暮らしやすい地域づくりや仲間づくりに取り組むさまざまな団体があります。そのような団体の活動内容や魅力を知っていただくため、シリーズで紹介していきます。興味を持った方はぜひ地域での活動や行事に参加していただき、いまの生活をより豊かで快適にしていきたいと思います。



ボランティア連絡会 会長 佐野 とし子さん

設立年 2002年  
登録団体数 約20団体  
活動日 必要に応じて  
問い合わせ先 075-932-1960  
(社協ボランティアセンター)

向日市社協  
ボランティアセンター  
LINE公式  
アカウント



### Q. どのようなことをしている団体ですか？

A ボランティア連絡会は、向日市内で活動する個人ボランティアや団体が相互に連携し、社協と協力して活動を円滑に進めるための調整役です。社協のボランティアセンターに登録している団体の代表者などで構成されています。

### Q. 佐野さんはどのような活動に取り組んでいますか？

A 平成6年に、要約筆記サークル「フレンド」を立ち上げました。要約筆記とは、主に中途失聴や難聴者に対し、話し手の言葉をその場で文字にして伝える通訳支援で、イベントなどの場でノートテイク（紙に書く）やOHCなどの機器を用いて情報を正確に届ける活動です。ある時、社協主催のレクリエーションで閑空見学に同行した際、バスガイドの案内やクイズを書き取って伝えたとこ、難聴者の方から「これまでは話が聴



こえづらく、ただ時間を過ごすだけだったが、今日はさまざまなことに参加できて楽しかった」との言葉をいただき、やりがいを感じました。また、平成7年の阪神・淡路大震災後には、福祉施設での支援やリフォームなどを行う団体「プラスワン」も設立しました。

### Q. どのような人にボランティアに参加してもらいたいですか？

A 定年退職後などで時間に余裕がある方は、ぜひボランティア活動について調べてみてください。女性が多い印象はありますが、近年は男性が活躍するサークルも増えています。「プラスワン」では、参加をきっかけにホームヘルパーの資格を取得し、現場で活躍している方もいます。一歩踏み出すことで新しい仲間と出会い、世界が広がります。私自身、当時から共に活動している仲間とは今でも親しく、困ったときに支え合える強い強い絆が生まれました。さらに最近は手話の学習を始め、新たな刺激を受けています。これからも、自分にできることをマイペースに続けていきたいですね。

